

<財産分与調停を申し立てる方へ>

1 概要

財産分与とは、夫婦が婚姻中に協力して得た財産を、離婚する際に又は離婚後に分けることです。離婚後、財産分与についての話し合いがまとまらない場合には、離婚から2年以内に家庭裁判所に調停を申し立てることができます。

調停手続では、調停委員会が、申立人（あなた）及び相手方から事情を聴いたり、資料を提出していただいたりして、夫婦が協力して得た財産がどれくらいあるのか、どちらがどの財産を取得すべきかといった事情を把握しながら、双方の合意を目指して話し合いを進めます。

話し合いがまとまらず調停が不成立になった場合には自動的に審判手続が開始され、裁判官が、審判手続において、新たに審問や証拠調べ等を行い、その結果等に基づいて審判をすることになります。

※まだ離婚していない夫婦が財産分与を求める場合には、夫婦関係調整（離婚）の調停の中で話し合いをすることができます。

2 申立てに必要な費用

- 収入印紙・・・1200 円分
- 連絡用の郵便切手・・・180円×1枚、110円×5枚、10円×5枚 合計 780円分

3 申立て時や調停進行中の提出書類等とその取扱い

(1) 申立てに必要な書類

- 申立書（財産目録を含む。）3通
→ 申立書及び財産目録は、法律の定めにより相手方に送付しますので、裁判所用、相手方用、申立人用の控えの3通を作成してください。
- 送達場所等（変更）届出書1通
- 進行に関する照会回答書1通
- 離婚時の戸籍謄本（全部事項証明書）1通
→ 夫婦の一方が除籍された旨の記載があるものを提出してください。
- 不動産登記事項証明書、固定資産評価証明書各1通 ※不動産がある場合

(2) 調停進行中の提出書類等

必ず提出していただく書類等

次の書類は、第1回調停期日までに提出してください。

- 財産に関する資料等
→ 固定資産評価証明書、預金通帳写し、残高証明書等財産の内容が分かるもの
- ※ 事案によっては、このほかの書類等を提出していただくことがあります。

(3) 提出方法

- ・ 財産分与調停事件は、当事者双方が婚姻中に得た財産の内容等を把握した上で話し合いを進める手続です。そのため、書類等を提出する場合には、裁判所用及び相手方用としてコピーを2通を提出するとともに、調停期日には申立人用の控えを持参するようお願いいたします。
- ・ 書類等の中に相手方に知られたくない情報がある場合で、家庭裁判所が見る必要がないと思われる部分（住所秘匿の場合の源泉徴収票上の住所等）は、マスキング（黒塗り）をしてください。（裁判所用及び相手方用のコピー2通全て同様に作成してください。）

※マイナンバーが記載されていないことを必ず確認してください。マイナンバーが記載さ

れている場合は記載のないものを改めて取り寄せて提出するか、数字部分を隠して写しを作成し、写しを提出してください。

- ・ マスキングができない書面については、「非開示の希望に関する申出書」に必要事項を記載し、その申出書の下に当該書面を付けて一体として提出してください。相手方にその書面等を交付するか否かについては、裁判官が判断することになります。

(4) 提出された書類等の閲覧・謄写（コピー）

相手方から閲覧・謄写（コピー）の申請があった場合、これを許可するかどうかは裁判官が判断します。そのため、「非開示の希望に関する申出書」が提出されている場合であっても、閲覧・謄写が許可される可能性があります。

また、調停が不成立となって審判手続が開始された場合、審判のために必要な書類等については、調停手続では閲覧・謄写の申請がなかったり、申請はあったが許可されなかった書類等であっても、閲覧・謄写の申請があれば、法律の定める除外事由がない限り許可されます。

4 申立先

相手方の住所地を管轄する家庭裁判所となります（ただし、相手方との間で担当する家庭裁判所について合意できており、申立書と共に管轄合意書を提出していただいたときには、その家庭裁判所でも対応することができます。）。

5 調停の進め方について

調停の流れは下図のとおりです。調停は平日に行われ、1回の時間はおおむね2時間程度です。それぞれ別々の待合室でお待ちいただいた上で、同時又は交互に調停室に入っていただきます。調停委員会が中立の立場で、双方のお話をお聞きしながら話し合いを進めていきます。

また、調停期日の開始時と終了時に、双方当事者ご本人に同時に調停室に入ってください、調停の手続、進行予定や次回までの課題等に関する説明を行うこともありますので、同席に支障がある場合には、「進行に関する照会回答書」にその具体的な事実を記載してください。

